

売上予測

棚 POWER の売上予測とは、売上データを参照し、商品の陳列を変更することで売上がどのように変化するかを予測する機能です。

棚割モデルと売上情報が紐づけされている状態で「位置指数」「フェイス指数」「アイテム指数」の3つの指数を使用して予測値を計算します。

棚割モデルの表示～分析設定

起動～準備

指数の設定

予測結果を確認

1. 棚割操作-[開く] より、売上を予測する棚割モデルを選択、表示します。



2. 棚割操作-[分析設定] をクリックし、一覧の中から売上予測に使用する売上情報を選択して、[設定] をクリックします。



■ 売上データ

事前に棚 POWER に「売上情報」として登録しておく必要があります。登録方法は操作テキスト『棚割分析編』をご確認ください。

■ 分析期間

分析設定内の「分析期間」未指定の場合は、登録したデータの全期間を集計して分析します。一部の期間のみ分析で使用する場合は、分析期間に使用する期間を設定してください。

- 棚割操作-[売上予測]ボタンをクリックします。
画面右側「商品リスト」欄が「売上予測」欄に変更されます。
- 「予測基準」より「現状棚割モデルから予測」を選択し、[売上予測] をクリックします。



「現状棚割モデルから予測」
する場合は、予測開始時点の
棚割と編集されていく棚割を
常に比較して売上がどう変化
するのかを予測します

「他の棚割モデルから予測」
での予測については4Pをご
覧ください。

指数の設定

起動～準備

指数の設定

予測結果を確認

売上予測を行うためには各指数の設定が必要です

指数には「位置指数」「フェイス指数」「アイテム指数」の3要素があり、それら全てを組み合わせることで予測値を算出します。

- 「位置指数」を設定します。
位置指数とは陳列位置が売上に与える影響を指数化したものです。
購買者層の性別や年齢、店頭での客動線などの条件を元に初期値を自動設定させることが可能です。

- 条件設定で購買者層（性別/年齢）の設定を行ないます。
- 客動線を設定します。
- L字什器を使用されている場合は、什器情報の「L字什器」を有効にします。
- 条件設定の設定をもとに位置指数が反映します。



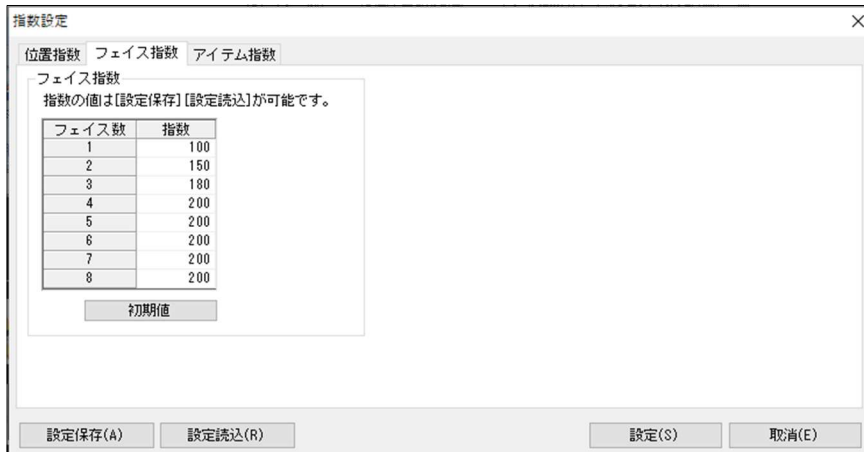
購買者の視線の高さ =
ゴールデンゾーンとな
り、ゴールデンゾー
ンの指数を 100 として、
その他のエリアの指数
を調整します。

位置指数のチェッ
クボックスを選択す
ること
で視線の高さを手
動で
変更することも可
能で
す。

6. 「フェイス指数」を設定します。

フェイス指数とは「フェイス数が売上に与える影響」を指数化したものです。

1 フェイスの指数を 100 として、2フェイス、3フェイスと拡大した場合の売上変動を指数で管理します。



フェイス数ごとに数値を直接入力します。

「初期値」をクリックすると、全フェイス指数が初期値に置き換わります。

各エリアの指数は、手動で細かく調整する事も可能です。

7. 「アイテム指数」を設定します。

位置指数、フェイス指数のほか、売上に影響を与えるすべての要素はアイテム指数として使用します。

『CMや店舗内のPOPなど販促活動の有無による影響』『展開時期』『新規陳列商品による既存商品への影響』など、自由な視点で設定できます。

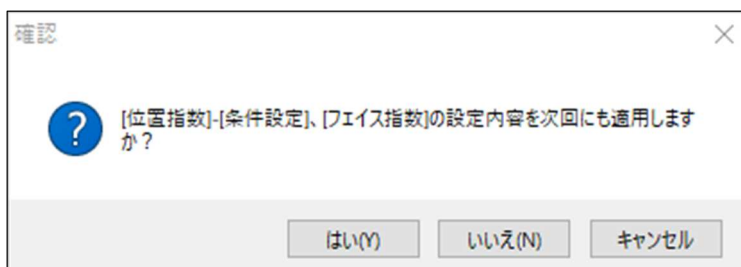


アイテムごとに指数を設定します。売上に影響を与える要素がない場合には初期値「100」で設定します。

8. 「設定」をクリックします。

各指数の設定を次回売上予測時も保持するかを選択するウィンドウが表示されます。

「はい」または「いいえ」をクリックすると売上予測の結果が表示されます。



売上予測の実施～確認

起動～準備

指数の設定

予測結果を確認

棚割を編集して、売上がどのように変化するかを確認します。

「売上予測結果」欄に現状と変更後の数値を表示しているため、陳列商品を変更しながら確認します。

売上予測		売上予測			
予測結果		予測結果			
	売上金額(円)	粗利益(円)			
現状	7,081,650.00	1,761,776.00	現状	7,081,650.00	1,761,776.00
予測	7,072,914.00	1,759,592.00	予測	7,107,884.00	1,768,233.60
	99.88 %	99.88 %		100.37 %	100.37 %

■ 予測結果の表示

青文字：

予測値が現状を上回る場合

赤文字：

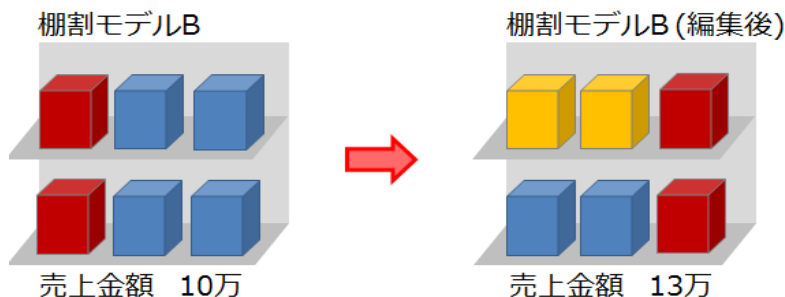
予測値が現状を下回る場合

予測基準について

売上予測は予測基準の棚割と比較して編集中の陳列を変更する事で、売上がどう変化するかを予測する機能です。予測開始の基準として設定できるパターンは2種類あります。

現状棚割モデルから予測する

予測開始時点の棚割と編集されていく棚割を常に比較して、売上がどう変化するのかを予測します。



他の棚割モデルから予測する

同じ棚割の編集前、編集後で比較するのではなく、予測開始時点に別の棚割を選択し、編集中の棚割と常に比較して、売上がどう変化するのかを予測します。

